

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0170400303		
法人名	有限会社 札幌すこやか介護サービス		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	札幌市西区発寒6条13丁目10番22号 (電話) 011-668-0200		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】 (19年11月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 2人, 非常勤 8人, 常勤換算 4.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費20,000円 暖房費(11~3月)8,000円
敷金	(有) (35,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,350 円

(4) 利用者の概要 (11月 26日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	2	要介護2	2		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 81.6歳	最低	65歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢総合クリニック、北海道脳神経外科記念病院、日の出齒科診療所、静明館診療所
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに大きな公園もある閑静な郊外に位置するグループホームであるが、建物は併設の訪問介護、通所介護事業所等と同一棟となっている。訪問介護、通所介護事業を開設・運営する中で、その利用者を受け入れる施設として当ホームを開設したものである。ホーム自体の歴史は浅いが、在宅高齢者介護の長い経験と深い思い入れに裏付けられて、高齢者が、優しく暖かな支援の中で、安心して穏やかな日々を送れるよう、配慮の行き届いた運営がなされている。町内会や近くの住民、小学校とも親密な関係を築いて地域に溶け込んでおり、さらにホーム自体が多彩な行事を組んで利用者を楽しませている。職員の待遇、教育も行き届いて、グループホームの模範ともいえるべき運営が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回指摘された、契約書への、利用者の権利義務の明記、献立の栄養チェック、現金による買い物支援、薬品の管理についてはいずれも適切に改善されている。玄関の表札・案内表示についての指摘については、利用者家族の意見も聞いて目下のところ保留としている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に運営者も参加して評価の意義や目的を、カンファレンスの場で話し合い、評価の作成に取り組んだ。自己評価作成の中から改善の取り組みについても話し合わせ、各職員が自ら日常の活動を振り返り、見直す機会として有効に活用されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームでの活動の内容、利用者の現状、ホームの行事、自己評価、外部評価などについて報告され、町内会行事への取り組みなどについて討議されている。会議での話し合いの中から、地域の人たちの理解と支援が得られ、ホーム側からの地域への協力などが生まれている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族との緊密な連絡、来訪時の話し合いにより、意見、苦情などの汲み取りには細心の注意を払っているが、これまでそのような事例は出たことがない。出た時の受付、検討、対応のルールを定め、準備は出来ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、ごみ拾いや盆踊りなどの行事に参加し、手伝いなどもしている。近くの小学校との付き合いも頻繁で、音楽発表会、運動会に参加し、図書館からの本の借り出しも行われている。社会福祉協議会の斡旋で、読み聞かせやギター演奏などの地域のボランティアが毎月来訪して利用者と交流している、など、地域との連携には積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①穏やかな時間、②馴染みの環境、③居心地のいい場所、④年長者を敬う心、⑤地域との連携、という5項目の内容を柱にした、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はパンフレット等に明示され、玄関、事務所内にも掲示され、職員はカードに印刷したものを常時携帯している。期間ごとに項目を差し替えて掲示する工夫もある。カンファレンスでも取り上げるなど、理念共有の努力、工夫は徹底して行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との連携、交流は盛んで、町内会に加入して各種行事に参加し、手伝いもしている。小学校の音楽発表会、運動会に参加し、図書館からの本の借り出しも受けている。読み聞かせやギター演奏などの地域のボランティアが毎月来訪して利用者と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に運営者も参加して評価の意義や目的を、カンファレンスの場で話し合い、評価の作成に取り組んだ。自己評価作成の中から改善の取り組みについても話し合わせ、各職員が自ら日常の活動を振り返り、見直す機会として有効に活用されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの活動の内容、自己・外部評価などについて報告され、町内会行事への取り組みなどについて討議されている。会議での話し合いの中から、地域の人たちの理解と支援が得られ、ホーム側からの地域への協力などが生まれている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区に対して月1回の情報をメール送信し、運営推進会議の議事録を送っている。西区および札幌市のグループホーム管理者会議で市・区の職員と交流し、サービス向上の取り組みについて話し合っている。そのほか、生活保護課などとは個別の往来をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「すこやかだより」、金銭出納帳コピー、食事のメニュー表は毎月送っている。家族は数ヶ月から1週間ごとに来訪するので、その機会に管理者だけでなく、職員からも暮らしぶりを詳細に伝えている。必要に応じて電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との緊密な連絡、来訪時の話し合いにより、意見、苦情などの汲み取りには細心の注意を払っているが、これまでそのような事例は出たことがない。出た時の受付、検討、対応のルールを定め、準備は出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人事業所間での職員の異動はなく、開設以来、管理者、常勤職員の異動はない。非常勤を含めて、職員が働きやすい職場となるよう、例えば子どもを連れての勤務も可能とするなど、配慮を尽している。退職についてはその事情に応じて説明し、あるいはそっとして、利用者へのダメージに配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時には新人研修を行い、さらに経験とレベルに応じて各種の外部研修に派遣している。3年以上の経験者には認知症介護実践者研修を受けさせている。平均して一人の職員が年間3回程度の外部研修を受けている。職員のレベルに応じて特別養護老人ホームや他のグループホームの実習も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内のグループホームで組織する管理者会議を軸に、活発な交流が行われ、様々な研修の機会が設けられている。管理者の研修会のほかに、職員レベルでの事例検討研修、相互訪問見学も行われている。さらに、納涼祭、敬老会への相互参加、運営推進会議へのオブザーバー参加も行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人とも十分な話し合いと見学を重ね、納得をした上でサービス利用を開始している。入居当初は、なるべく家族が来訪するよう依頼するとともに、居室への引きこもりを避け、他の利用者と早く馴染めるように、部屋にテレビは置かないよう、依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度、後片付けなど、利用者は男女を問わず家族のように職員と共同作業をしている。職員は、ありがとう、と声をかけ、役に立っていると感じ取ってもらっている。古い話や昔苦労した話などは、若い職員には参考になることが多い。調理の方法や味見では利用者の経験と知恵が役に立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式による評価を活用して利用者の思いや不安、喜びなどを理解するように努めている。家族にも協力を依頼して情報を集めている。ホームの日課についても、全員参加にこだわらず、あくまでも個別に、本人の立場に立ったケアを重視している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前訪問で収集した情報やセンター方式を使用し、本人の心身の状態を把握している。職員の意見を記載した「ケアカンファレンスシート」を用い、全体会議で課題や対応について話し合っている。作成にあたり、介護計画作成者は本人・家族の意見を入れ、計画書を作成し、家族に同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングで本人の状態を把握し、3ヶ月ごとに見直している。「生活アセスメントシート」24時間チェック項目にそって暮らしの状況を把握し、状態に変化が生じた場合には随時に見直している。職員間では、「日々の気付きノート」でケアの情報交換を行い、対応の共有化をはかっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎等、本人、家族の要望に応じて柔軟に対応している。利用者の体調の変化に応じて訪問診療があり点滴治療も可能になっている。地域住民の介護相談を受けたり、当ホームへの見学も常時、受け入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に、継続して治療が受けられるように協力関係をとっている。利用者の希望にそって対応しており、週3回の透析治療や家族の事情に応じた受診同行も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化に係わる指針を説明し、同意書を交わしている。また、終末期における意思確認書を作成し、本人・家族・関係者で終末期の過ごし方について話し合っているところである。今後は、看取りについても、本人・家族の判断にそっての対応を準備していく方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の勉強会を持ち、個人情報の取扱で職員に契約書をとっている。利用者の尊厳を大切にし、人前で失敗を責めないように、排泄の声かけなどにも配慮している。記録類は事務所に置き、個人ファイルは鍵のある場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを重視しており、日々、個人の暮らしにそって支援している。買い物や犬の散歩など、行きたい時に同行し、夜間入浴を望む利用者には、可能な限り対応し、一人ひとりの希望にそって柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる事をお願いし、個人の力を引き出している。野菜収穫、調理、味付け、盛り付け、片付けなど、男性利用者も加わり、食事への作業を職員と一緒にこなしている。職員も同じテーブルで食べ、利用者とは話をしながら自然な風景が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入れるように用意している。利用者の入りたい時を確認し、希望にそって支援をしており、夜間入浴も可能なかぎり対応している。近くの銭湯や日帰りでの温泉で、入浴を楽しむ機会もつくっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意な面を引き出し、日々の暮らしを支えている。料理の味付け、漬け物、毎月の手打ち麺など、職員は教わりながら一緒に行っている。また、菊祭見物、すすき取り、コンサート、雪祭りなどに出かけている。習字、写経や小物作りなど、趣味なども手伝い、一人ひとりの楽しみごとに対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、散歩や買い物は行なわれている。個人の希望にそって喫茶店や外食を楽しんでいるが、全員での外出を嫌がる利用者には、職員と二人で食事や買物などに出かけられるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の状況を見守り、鍵をかけない取り組みに努めている。外に出そうな気配にはさりげなく声をかけ、一緒に散歩をするなど、安全にも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間も想定し、消防署の協力で、年に2回の避難訓練を実施している。避難場所には、近隣の同業者と話し合い、双方のそれぞれの事業所を避難場所として決めている。現在、地域住民の協力を得るために運営推進会議で呼びかけているところである。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分摂取量は「健康アセスメント表」で把握している。献立は、職員が当日に決めている。利用者の好みも入れながら、栄養バランスに注意して作っており、その内容をまとめた献立表を、毎月、家族に送っている。カロリー計算は栄養士から紹介を受けたインターネット上でチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物で、共有空間は生活にそって便利に改造されている。食堂兼居間は、両面の窓から光線が入り明るい。ソファやテーブルなどの配置は、家庭的なしつらえで工夫されている。共用の場所には、職員と一緒に作った季節ごとの作品を飾り、季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた家具や飾り物など、馴染みの物を持ち込んでいる。家族の写真、絵画、書道の作品など、その人らしい居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。